

分野別講座「Oから教えます、先生の仕事」

参加者 十二名

まとめ 阿久澤恵子

●提案 深澤英雄

参加者はまず「教師にとって大事な力」を五つ考えました。自分の描く教師像や現在自分が置かれている状況によって、「必要」な力を考えたようでした。

講師は「教師には多種多様な力が必要である」と話された上で、

「コミュニケーション力」

「疑問をもつ力」

「相談力」

「準備力」

「心の体力（我慢力）」

の五つの力を上げました。

中でも「コミュニケーション力」

は多くの参加者も大事だと考えており、学校での子どもや同僚との関係、保護者との関係など、日々の取り組みや学校の置かれている社会的状況から、必要不可欠であると感じている実態が分かりました。ただ、教師も人間であることから、「苦手な子どもがいること

は仕方がない。」という講師の言葉に安堵しました。さらに「眠れぬ夜の教師のために」（三上瀧著）

を紹介され、苦手な子どもがどう

いう子であるのかを知るために

「生い立ちの記」を子どもに、「子

育ての記」を親に書かせることに

よって、親子に寄り添うことを学

びました。

また「相談力」として「聞く・

聴く・訊く」ことが大事であるこ

とを聞き、独りですべてを背負わ

ないこと、チームとして動くこと

の必要性を再認識しました。

学級づくりでは一学期は「守」

としてリード（指導）し、二学期

には「破」としてサポート（支援）、

三学期は「離」としてバックアッ

プ（応援）を考え、子どもの自立

を促していくことが大切だと確認

することができました。多くを学

び確認できた時間でした。

分野別講座「小中高をつなぐ学力づくり」

参加人数 二十名

まとめ 深沢 英雄

〇子どもたちの実態から

わかったこと

阿久澤恵子

情熱あふれる阿久澤先生の話ぶりに参加者が引き込まれる講座でした。

学んだポイント

一、中学校での学力づくりで大事

にしていること。

①生活の基盤づくり

②挨拶・返事・提出物〇当たり前のことを当たり前にやる〇社会性を身につける〇労働が人を作る

「掃除の仕方は勉強の仕方」

③学習の基盤づくり〇「鉛筆・下敷き・丁寧な字」の徹底指導

〇鉛筆の持ち方指導〇ユビックス

の活用〇ひらがな練習帳〇カタカナ練習帳〇名文視写〇ノート指導

④自主学習を通して勉強の方法を身につける。

ノートは罫・縦に4分割して使う・答えだけを書く・すぐに丸つけ、間違いをなおす。鉛筆はB（正しく持つ、そのためにユビックス）・毎日自分でできる量をぼちぼちやる。

二、学校が子どもたちに身に付けさせるべきこと

〇徹底した「基礎基本」の習得（身に付くまで何度でも学び直す）

※身に付くとは習慣・感覚まで高めること

〇人として「当たり前にする」

生徒の実物のノートなどを回覧してもらおう。びっしりと書いているノートを見て、参加者は驚いていた。講座の中で阿久澤先生の言う、感覚とは、「かけ算九九」でいうと、考えるのではなく、瞬時に答えができることを指している。基礎基本の自動化・体化しているというところを感覚と位置づけている。

三、大事にしている言葉

「論語」「之を知る者は、之を好む者に如かず。之を好む者は、之を樂しむに如かず。」

「小さな習慣」

「小さな目標は大きな目標よりすぐれている」「モチベーションに頼っても習慣は身に付かない」